

令和 3 年度 事業報告書概要



社会福祉法人市原市社会福祉協議会

令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症の長期化により、地域における活動の中止や縮小開催等、活動を制限せざるを得ない状況が続きました。そのような中で、社会的孤立や生活困窮などの福祉課題は深刻化しておりますが、住民にとっての不安感や孤立感を少しでも軽減するため、地域で活動される皆さまとともに予防対策を講じながら集い・交流の場として、ふれあいサロンや地域・子ども食堂等の活動を再開してきたところです。

令和3年度が開設初年度となる市原市成年後見支援センターは当事者団体や関係機関等を中心に広報・周知活動を行い、市民の皆さまや関係機関の紹介により多くの相談が寄せられ、支援を通じて制度利用に繋がりました。

また、令和3年9月には「第6次地域福祉活動計画」を策定しました。地域共生社会の実現に向けた地域づくりを推進するため、新たな計画のもと、地区社協をはじめとした関係団体の皆さまと協働で活動を進めてきました。



Twitter



Facebook



YouTube



LINE



トップマネジメント、トップセールスの強化

■組織運営事業

[事業報告書 P1]

1. 各会議体の開催

会議体	実施回数
正副会長会	12回
理事会	5回
評議員会	3回
常任委員会	3回
評議員選任・解任委員会	1回
地域福祉活動計画推進本部会議	12回

●ZOOM を活用した理事会の様子



コロナ禍においても、正副会長会、常任委員会、理事会は通常開催(ZOOM 開催も有)をし、議論を通じて意思決定することができました。特に今年度は地域福祉活動計画の見直しについて各会議体で意見交換・議論を行い、令和3年9月末に同計画を改訂しました。

社協の見える化・見せる化の推進

■広報事業

1. 機関紙「いちほら社協だより」の発行 [事業報告書 P3]

町会回覧	79,000 部	年2回
新聞折込	98,350 部	年2回
フードパントリー号外	60,000 部	1 回

●社協だより



2. ホームページの運営

トップページをリニューアルし、SNS と連動することで情報発信の幅が広がりました。

●ホームページ

URL : <http://www.ichihara-shakyo.or.jp>

ホームページ 閲覧回数 10,732 回



3. SNS(フェイスブック・ツイッター・公式 LINE・YouTube)の運営



●ツイッター

広報媒体	閲覧回数(3月 31 日現在)
フェイスブック	3,204 件
ツイッター	36,793 件
合 計	39,997 件

YouTube
動画投稿数 7 本
総視聴回数 1301 回

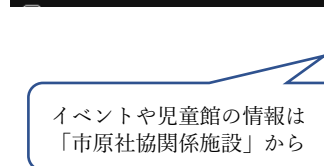


●YouTube



●公式 LINE

ボランティア講座、情報等は「市原市社会福祉協議会」から



イベントや児童館の情報は「市原社協関係施設」から



公式 LINE

総登録者数 110 名

新たな情報発信ツールとして公式 LINE を導入し、導入後3カ月で110 名の方に登録いただいております。ホームページ、SNS、YouTube を合わせると52,030 件のアクセスがあり、月平均およそ4,335 回（1 日あたり144.5 回）閲覧いただいております、本会の活動を周知することができました。

財政基盤の充実・強化

社会福祉基金運用事業 [事業報告書 P6]

1. 普通預金 77,917円

2. 定期預金及び債権

(1) 定期預金 50,000,000 円（定期預金及び債権については、預入金額の変動はありません）

(2) 債権

(単位：円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価評価額	評価損益
千葉県第10回公募債	100,000,000	114,050,000	14,050,000
政府保証債第284回日本高速道路保有債務返済機構債権	100,000,000	95,480,000	△4,520,000
合 計	200,000,000	209,530,000	9,530,000

※債権は満期保有としているため、満期時には帳簿（額面）価額償還となります

社会福祉基金総額

250,077,917円

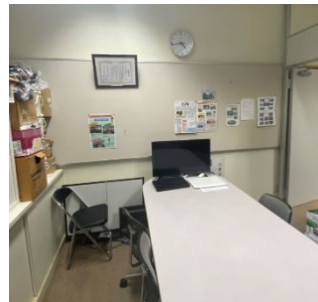
■ 社会福祉基金の活用

1. 地区社協拠点等整備事業

令和3年度助成額 1,043,052円(8地区)



●国分寺台地区社協



●姉崎地区社協

2. 地区社協事務局運営経費

助成金額	備 考
160,000×11 地区=1,760,000 円	1地区年額 160,000 円

3. 地区社協車両貸与事業

地区名	車両リース代	備 考
辰巳台	184,140 円	コーディネーター支援及び買い物代行として



地域における体制強化等の財源として、社会福祉基金 2,987,192 円を活用いただきました。※うち 2,292,140 円は令和 3 年度に取崩し済み、残額 695,052 円は新年度に令和 3 年度分として取崩します。

みんなで支え合い助け合える地域づくり

■ 小域福祉ネットワーク、地区社協活動支援・運営支援

1. 小域福祉ネットワークにおける各会議体の実施概要 [事業報告書 P7]

年度	開催日数	延参加者数
R3 年度	259 日	3,388 名
R2 年度	205 日	2,670 名
増減	54 日	718 名



●世代間交流事業



●登下校時の見守り活動



●推進委員会の様子



新型コロナウイルスの影響が続く中、少人数の会議等で役員と地区担当職員と一緒に情報を共有し検討したことで、開催日数が増加しました。「今できる」ことに重きを置いた形で活動に取り組めたことで、次年度からの活動再開に向け具体的な展開が図られました。

2. 地区社協における各会議体の実施概要 [事業報告書 P9]

年度	開催日数	延参加者数
R3 年度	297 日	2,801 名
R2 年度	266 日	2,258 名
増減	31 日	543 名



●総合相談会



●災害支援ボランティア事業

新型コロナウイルスの影響が続く中、地区社協に対し地域福祉活動等の再開に向けた考え方を示し、再開のガイドラインとして共有を図りました。「今できる」ことに重きを置き、役員と地区担当職員が活動再開に向け検討したことで具体的な事業展開に繋がりました。

■ 地域づくり支援事業

1. 各種サロン事業 [事業報告書 P10]



●いきいきサロン



●はつらつサロン



●子育てサロン

年度	開催日数	延参加者数	延支援者数
R3 年度	271 日	3,691 名	1,524 名
R2 年度	218 日	3,186 名	1,201 名
増減	53 日	505 名	323 名

新型コロナウイルスの影響が続く中、感染症対策をしながらコロナ禍で不安を抱えがちな高齢者や障がい者、子育て家庭の孤立防止及び集い・交流の場として、延べ 3,691 名の方に参加(利用)いただきました。

2. 子どもの居場所 [事業報告書 P1 1]



●地域・子ども食堂



●地域・子ども食堂ネットワーク準備会

地 区	名 称	開催日数	参加者数	支援者数
辰巳台	トイトイ食堂 B	11 日	596 名	110 名
国分寺台	地域食堂コンパス	22 日	137 名	144 名

○ 地域・子ども食堂ネットワーク設立準備会

項目	期日	参加団体数	内 容
第1回	11月 24日	4団体	○ネットワーク設立の目的について ○ネットワークの規約について ○ネットワークの名称（愛称）について ○意見交換
第2回	3 月9日	7団体	○ネットワーク規約の決定について ○ネットワークの名称（愛称）について ○令和4年度の年間活動について ○意見交換

地域・子ども食堂の活動団体や活動を始めたいと考えている団体がお互い交流し、情報交換等を行う場として「地域・子ども食堂ネットワーク」の設置に向け準備会を設置・開催し、ネットワークの役割や機能を関係者間で共有しました。今後、市社協が事務局を担い、活動の推進を図ります。

3. 安心生活見守り支援事業 [事業報告書 P1 2]

年度	実施数	見守り希望者数	安心訪問員数	延訪問回数
R3 年度	41 ネットワーク (43 小学校区)	1,163 名	1,293 名	19,079 回
R2 年度	41 ネットワーク (43 小学校区)	1,192 名	1,327 名	20,015 回
増 減	—	△29 名	△34 名	△936 回



コロナ禍で不安を抱える一人暮らし高齢者等が孤立や孤独を感じないように、直接訪問が難しい状況においてもメッセージカードやチラシ等を活用した見守り活動を行うことで、地域との繋がりを保つことができました。

4. 地域主体の子どもの見守り強化事業 [事業報告書 P13]

地区	延活動者数	延訪問数
ちはら台	104 名	54 回



●報告会

ちはら台地区をモデルとして、訪問員が戸別訪問により、対象児童の状況を定期的に確認し、対象家庭に地域イベントやサロン活動を周知することで、子育て世帯を地域でゆるやかに見守る活動が実施されました。地域と子育て世帯の交流が生まれ、地域で主体的・継続的に子どもを見守る気運に繋がりました。

5. 地域福祉支援事業の推進 [事業報告書 P14]



●地域福祉支援事業

内 容	事業実績	R3年度	増減
地域福祉支援事業	導入型:160,000 円(4 団体) 交流型:300,000 円(6 団体) 個別(訪問)支援型:590,000 円(10 団体) 合 計:1,050,000 円(20 団体)	691,000 円	359,000 円

歳末たすけあい事業の一環として、地域福祉活動を通じ、支援を必要とする人たちが安心して暮らせる地域づくりを目指す「地域福祉支援事業」に、新型コロナウイルスの影響がある中、地区社協及び小域福祉ネットワークの 20 団体に申請いただき、子どもの居場所づくりに向けた取組や地域の避難訓練、日常のちょっとした困りごとの解決に向けた支援等地域の福祉ニーズに沿った多様な活動を実施しました。

みんなの生活を支えるための体制づくり

■ 総合的な相談支援体制の充実

1. 相談・貸付事業 [事業報告書 P15]

○総合相談（初回相談件数）

年度	生計	職業 生業	教育 青少年	障がい 者福祉	冠婚 葬祭	療養 健康	生活	その他	合計
R3年度	774 件	0件	156件	3件	2件	10件	195件	7件	1,147件
R2年度	1,955 件	3件	113件	7件	0件	6件	198件	135件	2,417件
増減	△1,181件	△3件	43件	△4件	2件	4件	△3件	△128件	△1,270件

○各地区における相談事業

年度	開催地区	開催日数	延相談者数	延支援者数
R3年度	11地区	737日	272名	902名
R2年度	8地区	360 日	143名	595名
増減	3地区	377日	129名	307名

新型コロナウイルスの影響を理由とする特例貸付（緊急小口資金、総合支援資金）の相談が多数を占めますが、対象条件が制限されたこともあり件数は減少となりました。また、地域の相談窓口では、全地区で相談支援事業が開始され、困難ケース等における専門機関への「つなぎ、橋渡し役」としての役割を担いました。

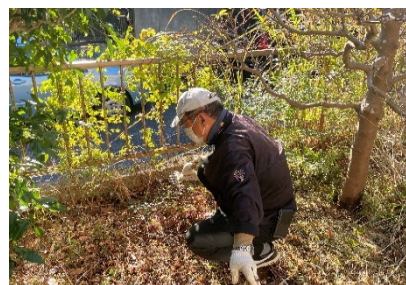
●作業風景

■ 地域生活を支援する事業の充実

[事業報告書 P16]

1. 日常生活支援事業の推進

①住民参加型在宅福祉サービス



地 区(名 称)	開設日数	延利用者数	延支援者数
辰巳台(たすけあい辰巳ねこの手)	312日	907名	1,140名
ちはら台(たすけあい隊)	77日	77名	77名
三 和(たすけあい三和)	230日	129名	388名
有 秋(くらしのささえあい)	63日	63名	292名
市 津(市津 まごの手)	131日	155名	334名
国分寺台 ※試行実施	1日	1名	4名

年 度	開催地区	開催日数	延利用者数	延支援者数
R3 年度	6地区	814日	1,332名	2,235名
R2 年度	5地区	600日	1,377名	2,165名
増 減	1地区	214日	△45名	70名

②事業化・活性化推進サービス

地 区	開催日数	延利用者数	延支援者数
辰巳台	20日	196名	20名
市 津	17日	304名	102名
有 秋	5日	49名	14名



●社会福祉施設の協力による
買い物ツアーの実施

年 度	開催地区	開催日数	延利用者数	延支援者数
R3 年度	3地区	42日	549名	136名
R2 年度	2地区	36日	420名	107名
増 減	1地区	6日	129名	29名

③日常生活支援事業交流会

期 日	令和3年12月10日(金)
場 所	ウエルシア・コミュニケーションセンターいちほら 多目的室1・2
参加者	日常生活支援事業協力会委員、地区社会福祉協議会関係者、日常生活支援事業に関心のある方(49名)
内 容	第1部 実践発表 ・辰巳台地区たすけあい辰巳ねこの手 ・有秋地区くらしのささえあい 第2部 情報交換会 「日常生活支援事業について語り合おう」

市内各地で住民相互による支え合い・助け合いの活動が実施され、国分寺台地区でも新たに住民参加型在宅福祉サービスの実施に向け試行実施が行われるなど、生活に課題を抱える住民の日常生活支援の拡充が図られました。また、新たな取組として活動の実践者と事業未実施の地区社協を加えた交流会を開催したことで、自分たちの地区で出来る事は何かがあるか考えるきっかけづくりができました。

2. 市原市成年後見支援センター運営事業

(1) 成年後見制度相談事業（市受託事業）

	一般相談等	専門相談	調整会議	合計
相談・支援件数	1,480件	34件	35件	1,549件

① 一般相談等の内訳

	電話相談	郵便・メール	訪問相談	来局	ケース会議	その他	合計
相談・支援件数	1,092件	38件	234件	112件	3件	1件	1,480件

制度概要や申立書類の書き方等、法律的な助言を必要としない相談について、職員による一般相談を実施

② 専門相談の内訳

○会場：社協事務局 毎月1回 13:30～16:30

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談件数	3件	3件	3件	3件	3件	3件	3件	2件	2件	3件	2件	2件	31件

○会場：なのはな館 年2回 13:30～16:30

	6	10	計
相談件数	2件	1件	3件

※弁護士による専門相談
相談者1名あたりの相談時間：60分
1日の相談枠数：3枠

制度利用の可否やケース検討について、弁護士と市関係機関で構成された「調整会議」を実施

③ 調整会議の内訳

月	参加者数	内 容				計
		市長申立	ケース検討	法人後見受任	経過報告	
4月	9名	1件	1件	2件	1件	5件
5月	11名	0件	2件	0件	1件	3件
6月	12名	3件	1件	0件	2件	6件
7月	8名	0件	0件	2件	0件	2件
8月	11名	4件	0件	0件	0件	4件
9月	9名	1件	0件	2件	1件	4件
10月	11名	1件	1件	0件	0件	2件
11月	11名	1件	2件	2件	0件	5件
12月	〈開催中止〉					

1月	9名	1件	0件	0件	0件	1件
2月	9名	1件	0件	0件	0件	1件
3月	10名	1件	1件	0件	0件	2件
計	110名	14件	8件	8件	5件	35件

④広報啓発活動

- ・パンフレット作成、広報紙でのPR活動
- ・研修会、セミナー、定例民児協にて啓発活動を実施（16会場）



(2) 法人後見

区分	後見人	保佐人	補助人	受任件数
高齢者	2件	1件	1件	4件
精神障がい者	0件	1件	0件	1件
その他	0件	0件	1件	1件
合 計	2件	2件	2件	6件

(3) 福祉サービス利用援助事業

①新規相談・利用件数

区分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合計	R2度	増減
新規相談件数	105件	0件	5件	5件	115件	87件	28件
新規利用件数	42件	0件	1件	4件	43件	35件	8件

②訪問・相談支援件数

契約件数	計画に基づく訪問支援件数	相談支援件数	支援合計	R2度	増減
1,064件	1,615件	3,015件	4,630件	4,235件	395件

市原市成年後見支援センター開設初年度として、当事者団体や関係機関等を中心にセンター活動の周知を行いました。そのため関係機関からの紹介や広報活動により相談件数は増加し、中でも申立支援に関する相談が多く寄せられ、支援を通じて家庭裁判所への申立へと繋がられました。令和3年度より法人後見受任を開始し今年度6名の受任をしました。

在宅生活での金銭管理について福祉サービス利用援助事業の需要は伸び続けており、今年度1名増員し体制強化を図りました。

■ 子育て・高齢者・障がい者支援活動の充実

1. いちはらファミリー・サポート・センター事業 [事業報告書 P2 1]

年度	延相談 件数	利用会員 登録者数	協力会員 登録者数	両方会員 登録者数	活動 件数
R3年度	75件	326名	65名	29名	484件
R2年度	49件	554名	123名	28名	311件
増減	26件	△228名	△58名	1名	173件



●ファミリー・サポート・センター
預かり支援の様子

2. 出産前後家事等サポート事業

年度	延相談 件数	実利用 者数	延利用 回数	延利用時間	活動 件数
R3年度	41件	78名	242回	452時間	567件
R2年度	35件	46名	157回	310時間	274件
増減	6件	32名	85回	142時間	293件



●出産前後家事等サポート事業
家事支援の様子

新型コロナウイルスの影響があったものの、家事サポの利用料を初回無料へ改定するなど、利便性の向上が図られたことから利用件数は増加傾向に転じました。また、子育て・育児に不安を抱える家庭に対し、市ネウボラセンター、行政担当課と連携した支援に努めました。

3. 生活支援体制整備事業 [事業報告書 P2 3]

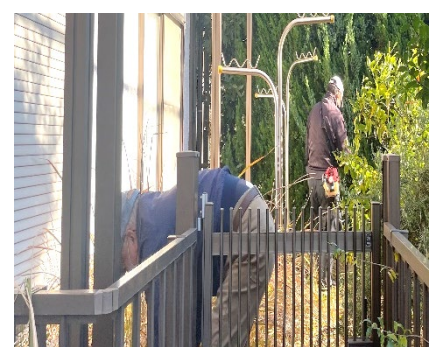
- ・地域に不足するサービス創出に向けた地域アセスメント（資源・ニーズ調査、ケース会議）
- ・地域で必要なサービスの創出（住民参加型の生活支援サービス、人と資源とのマッチング）
- ・サービスの担い手の育成（元気な高齢者の活躍の場づくり、活動支援者の意識調査）
- ・サービス提供主体、地域活動団体・専門機関の連携体制構築（ネットワークづくり）
- ・その他事業全般の充実強化（関係者フォローアップ研修・会議開催）



●ゴミ出し



●移動販売の展開



●住民参加型生活支援サービス試行

新たな試みとして、包括支援センターと連携した個別ケース会議を複数の地区で実施し、生活支援サービスの重要性を認識するとともに、ゴミ出し支援や移動販売の導入、買い物ツアーの展開に繋がりました。また、専門アドバイザーによるフォローアップ研修や会議を通じ、協議体関係者・生活支援コーディネーターの更なる意識醸成に努めました。

4. 居宅介護支援事業 [事業報告書 P24]

区 分	R3 年度延べ利用数	R2 年度延利用者数	増 減
要介護	1,278 名	1,267 名	11 名
介護予防	260 名	228 名	32 名
合 計	1,538 名	1,495 名	43 名

新型コロナウイルスの感染等に不安を抱える利用者も多く、身体的・精神的なフォローを十分に行いながら、継続的にサービスを利用出来るよう支援にあたりました。また、地域包括支援センターや医療機関に積極的にアプローチすることで利用者数の増加に繋げることができました。

■ 生活困窮者支援活動の充実

1. 各種貸付 [事業報告書 P27]

	区 分	相談件数	貸付件数(決定)	貸付金額	備 考
令和3年度	生活福祉資金貸付事業	238件	216件	80,315,000円	県社協事業
	新型コロナウイルス特例貸付事業	1,881件	1,612件	618,190,000円	県社協事業
	療養資金貸付事業	5件	0件	0円	市受託事業
	福祉資金貸付事業	9件	4件	57,000円	市社協事業
令和2年度	生活福祉資金貸付事業	212件	202件	67,847,900円	県社協事業
	新型コロナウイルス特例貸付事業	3,281件	2,231件	640,595,000円	県社協事業
	療養資金貸付事業	4件	3件	430,000円	市受託事業
	福祉資金貸付事業	12件	9件	135,000円	市社協事業

2. 応急法外援護 [事業報告書 P28]

年 度	相談件数	交付金額
R3年度	147件	424,100円
R2年度	178件	480,740円
増 減	△31件	△56,640円

経済的な課題を抱え、公的な福祉制度等で対応できない方に対し、生活資金の貸付相談等を切り口に、生活困窮者支援機関等と連携した家計改善などの支援に努めました。新型コロナウイルスの特例貸付は、対象条件が制限(新規申込のみ)されたことで減少傾向にありますが、生活保護などの公的給付までの繋ぎ資金(緊急小口資金)である生活福祉資金は増加傾向に転じました。

3. 新たな生活困窮者支援に向けた取組 [事業報告書 P28]

期 日	令和3年8月27日(土)
場 所	姉崎保健福祉センター(アネッサ) ボランティアルーム、実習室
参加者	姉崎・有秋地区・国分寺台地区にお住いの子育て家庭(計33世帯)
内 容	フードパントリーの開催 ・地域住民、企業の協力により収集した食品等を無償で配布 ・生活上の困りごとに関する相談の受付



新たな生活困窮者支援の構築に向け、フードパントリーの試行実施を行い、地域の方や企業などからの多大なる協力のもと、「困った時はお互いさま」の意識醸成に努めました。

みんなの顔がつながる仕組みづくり

■ 地区行動計画の推進

1. 地区行動計画推進委員会の開催 [事業報告書 P29]



地区行動計画の推進及び進行管理として、各地区の関係団体が参画した「地区行動計画推進委員会」が開催され、地区内の福祉活動に関する情報の共有が図られました。今後、第6次地域福祉活動計画と連動し、地域の実情を踏まえながら地区行動計画の必要な見直しに取り組んで参ります。

■ 福祉圏域間の連携・協働体制の強化

1. 地区社協連絡会の運営 [事業報告書 P30]

項目	期日	議 題
第1回	5月21日	【会議】 役員等の選出について 令和3年度地区社協連絡会の取り組みについて 食料支援事業「(仮)いちほらフードネットワーク」について 【説明会】 市社協と地区社協の関係性について 地区社協助成金について 地区担当職員の役割について
第2回	7月27日	【会議】 第6次市原市地域福祉活動計画(素案)について 令和3年度歳末たすけあい運動について 令和3年度地域福祉支援事業について 「よつばちゃんのフードパントリー」について 地区社協における災害時の対応について 【実践発表】 国分寺台地区、辰巳台地区
第3回	10月22日	【会議】 「よつばちゃんのフードパントリー」の報告について 地区行動計画に関する施策の具体的な考え方について 災害時救援活動のための社協基盤整備方策の改訂について 令和3年度地域福祉支援事業について 【実践発表】 有秋地区、南総地区
第4回	11月19日	【会議】 (仮称)共生型サロン(案)について 子どもの居場所づくり事業補助金(案)について 【実践発表】 姉崎地区、三和地区、加茂地区
第5回	2月25日	【会議】 新たな相談支援体制構築の考え方(案)について 地区社会福祉協議会設置基準に基づく令和4年度地区社会福祉協議会補助金積算額について 【実践発表】 ちはら台地区、市原地区
第6回	3月14日	【会議】 地域と社会福祉法人の連携・協働による活動の推進 ～「地域福祉活動」と「地域における公益的な取組」の連携・協働に向けて～ 【実践発表】 市津地区

地区社協連絡会を定期的を開催し、地区社協と市社協とが同じ方向性のもと事業展開が図れるよう意見交換をすることで、活動についての共通理解・共通認識に繋がりました。また、地区ごとの取組や課題について話し合える時間を設け、活動者主体の会議運営に取り組みました。

2. 小域福祉ネットワーク連絡会議

項目	期日	議 題
第1回	8月 2 日	○「第6次市原市地域福祉活動計画」(素案)の説明について ○食料支援事業「いちほらフードネットワーク」について 等 【新型コロナウイルスの影響により中止】

新型コロナウイルスの影響により、予定していた会議は開催できませんでした。連絡会議が、小域福祉圏における地域福祉活動を効果的に推進するために必要な会議体として、共通する課題を抽出し、解決に向けた対応策を協議・検討する場となるよう適切な運営に取り組みます。

みんなで取り組むための基盤づくり

■ ボランティアセンター事業 [事業報告書 P32]

1. ボランティア活動に関する相談・コーディネート

相談内容	R3 年度	R2 年度	増減
活動希望、活動中の問題に関すること	35 件	26 件	9 件
派遣依頼に関すること	36 件	24 件	12 件
その他	44 件	35 件	9 件
合 計	115 件	85 件	30 件

2. 登録ボランティア

区 分	R3 年度	R2 年度	増減
ボランティアグループ	170団体 (4,058名)	180 団体 (4,397 名)	△10 団体 (△339 名)
個人ボランティア	132名	145 名	△13 名
災害ボランティア	80名	53 名	27 名

3. 講座

区 分	実施回数	参加者
子育て支援者交流会	1回	85名
災害ボランティア養成講座	1回	37名
傾聴ボランティア養成講座	3回	82名
日常生活支援事業担い手養成講座	1回	9名
送迎ボランティア養成講座	1回	4名
災害ボランティアセンター設置運営訓練	1回	17名
福祉教育出前講座	4回	120 名
市原市災害ボランティア活動連絡調整会議	3回	10 団体



●災害ボランティア養成講座



●日常生活支援事業担い手養成講座
活動マッチングブース



●出前講座

新型コロナウイルスの影響で事業の中止及び規模縮小はあったものの、感染症対策を行ったうえで、予定事業は概ね実施することができました。

「災害ボランティア養成講座」では、実践に即した体験型のメニューに取り入れたことで、幅広い世代(10～70代)の方々が参加し、災害ボランティアとして新たに31名に登録いただきました。

また、新たに「日常生活支援事業担い手養成講座」を開催し、活動の場の提供の他、地区ごとのマッチングブースを設置したことで、新たな活動者の確保に繋がりました。

■ 地域福祉連携体制の強化

民生委員・児童委員との連携強化

○市原市民生委員児童委員協議会事務局 [事業報告書 P38]

内 容	回数等	内 容	回数等
正副会長・部会長会の開催	5回	会計監査の実施	1回
理事会の開催	2回	代議員会の開催	1回(書面)
地域福祉推進部会の開催	2回	主任児童委員部会の開催	2回
市民児協全体研修会	2回	理事研修会	2回
地域福祉推進部会・主任児童委員部会合同部会	延期	令和2年度分 地域福祉推進部会・主任児童委員部会・合同部会	3回
その他研修会、会議等の参加等(オンライン含む)			8回

新型コロナウイルスの影響が続く中、感染対策を講じながら、正副会長・部会長会議や部会等を開催し、民生委員活動の活性化に向けた支援に努めました。また、大人数で集まる研修会については、DVD 製作や WEB 上の動画配信を活用した新たな開催方式により、誰もが安心して研修会に参加できる環境づくりをしたことで、個々の資質向上の場を確保し、活動の推進を図りました。

指定管理施設の運営

4施設とも徹底した新型コロナウイルス予防対策を行い、安全な運営を心がけて参りました。利用者数の制限等があることから1日あたりの利用人数は前年並みですが、クラスター等出ることなく開館することができ、市民の皆様安心してご利用いただくことができました。未だ続くコロナ禍の影響により孤立感や不安感を抱えがちな方が増えている中、できる限りの事業を展開し、ふれあい・交流の場としての機会を提供することができました。

■ 老人福祉センター [事業報告書 P40]

○利用者数

区 分	R3年度	R2年度	増 減
老人福祉センター	14,576 名	10,229 名	4,347 名
開館日数	287 日	190 日	97 日
1日当たりの利用人数	50.7 名	53.8 名	△3.1 名



●防犯講座



●アートフラワー教室



●健康増進コーナー

■ 姉崎保健福祉センター [事業報告書 P4 1]

○利用者数

区 分	R3年度	R2年度	増 減
地域福祉センター	56,868 名	38,950 名	17,918 名
老人福祉センター	15,892 名	10,432 名	5,460 名
児童館	6,707 名	3,658 名	3,049 名
合 計	79,467 名	53,040 名	26,427 名
開館日数	343 日	223 日	120 日
1日当たりの利用人数	231.7 名	237.8 名	△6.1 名



●地域福祉センター
「アネッサ発 クリーン大作戦」



●老人福祉センター「絵手紙教室」



●児童館「キッズボランティアクラブ」

■ 三和保健福祉センター [事業報告書 P4 7]

○利用人数

区 分	R3年度	R2年度	増減
地域福祉センター	8,361 名	7,055 名	1,306 名
老人福祉センター	15,349 名	9,743 名	5,606 名
児童館	2,334 名	2,331 名	3 名
障がい者福祉センター	11,773 名	6,086 名	5,687 名
合 計	37,817 名	25,215 名	12,602 名
開館日数	339 日	223 日	116 日
1日当たりの利用人数	111.6 名	113.1 名	△1.5 名



●地域福祉センター「歌声喫茶」



●老人福祉センター
「ボールエクササイズ教室」



●児童館「人形劇」

■ 南部保健福祉センター

[事業報告書 P52]

○利用人数

区 分	R3 年度	R2 年度	増減
地域福祉センター	14,497 名	9,559 名	4,938 名
健康増進室	18,295 名	12,008 名	6,287 名
老人福祉センター	3,969 名	3,472 名	497 名
児童館	2,334 名	1,437 名	897 名
障がい者福祉センター	10,182 名	6,121 名	4,061 名
合 計	49,277 名	32,597 名	16,680 名
開館日数	342 日	222 日	120 日
1日当たりの利用人数	144.1 名	146.8 名	△2.7 名



●地域福祉センター「歌声喫茶」



●健康増進室「アクアウォーク」



●児童館「親子料理教室」

市内における地域福祉活動者の活動状況

■令和3年度活動状況

	R3年度	R2年度	増減
延活動日数	2,397 日	1,819 日	578 日
延活動者数	20,283 名	8,495 名	11,788 名
延活動時間数	7,582 時間	5,517 時間	2,065 時間
延参加者数	13,948 名	6,671 名	7,277 名

令和3年度は新型コロナウイルスの長期化に伴い、地域で活動されている皆さまと活動再開に向けた検討を重ね、感染予防対策を講じながら徐々に再開がなされたことで、活動数は前年度比べると大きく増加しております。未だコロナ禍による影響で活動制限がある中、地域住民に必要とされる活動を試行錯誤を繰り返しながら取り組んでいただき、市民の日常生活を支えるためにご尽力いただきました。